

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2770902514
法人名	特定非営利活動法人 つむぎの家
事業所名	グループホームつむぎの家
訪問調査日	平成 20 年 11 月 26 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 22 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年12月5日

【評価実施概要】

事業所番号	2770902514
法人名	特定非営利活動法人 つむぎの家
事業所名	グループホームつむぎの家
所在地	高槻市富田町5丁目16番6号 (電話) 072-697-3692

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年11月26日	評価確定日	平成20年12月22日

【情報提供票より】(平成20年10月3日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	21 人	常勤	6 人, 非常勤 15 人, 常勤換算 6.5 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有(円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(250,000円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	550 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(10月3日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	3 名	要介護2	4 名			
要介護3	0 名	要介護4	1 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	80.4 歳	最低	64 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	北摂総合病院 伊藤診療所 藤田歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

富田町の地元に嫁してきた代表者が、地域の高齢者を支援すべく開設した事業所である。代表者の自宅の隣に居宅支援、訪問介護、デイサービス、グループホームの事業所が併設されている。併設する事業所の職員同士の連携と全体チームワークが良く、その点が当グループホームの強みとなって、家族から見るときには充実したスタッフ体制として大きな安心感を与えている。代表者は職員の育成に重点を置き、職員は夫々が責任を持って期待に応えている。独自の改善活動(P-D-C-A)を導入して、介護計画のフォローを確実に行うために、「介護計画実施状況表」を考えて活用している。このたび、男性職員が地元の消防団員として地域防災活動に加わるようになった。新たな地域貢献が期待されることである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題に取り組んだ結果、同業者との交流が図られた、職員の消防団員への登録や避難経路の確保で災害対策が強化された。また、P-D-C-A改善活動の導入や介護計画の実施状況の日々のフォローが確実に行われるようになっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価を質の向上に活用する取り組みが行われている。今回の自己評価も、代表者、管理者、および職員が意見を出して行われた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では事業所の状況が報告されると同時に、参加者からの発言や提案を事業所の運営に活用する取り組みが行われている。地域に根ざした事業所を目指して、近所の住民に会議に参加してもらおう試みも行われた。事業所の改善事例等も会議で報告して活動の内容を参加者に紹介するなど期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を開催して、個別に家族の要望や提案を面談して聞き取ることを行っている。家族の来訪時には職員が利用者の暮らしぶりを報告すると共に、家族からの希望を聞くようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者が地域で暮らしていることが実感できるように、児童や中学生の訪問を受け入れて、利用者を楽しませたり、元気づけたり、地域の行事に参加して事業所や認知症への地域の理解が深まるように努めている。男性職員の地元消防団登録も地域活動の一環として重要であると思われる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは高齢者が安心して暮らせる地域づくりを目指して設立されており、理念にも地域に密着した運営方針が明確に盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は代表者の運営方針をよく理解して、利用者が安心して暮らし続けるように支援している。職員一人ひとりの行動の中にも事業所の方針が反映されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が地域で暮らしている事が実感できるように、機会を見つけては地域の行事に参加したり、児童や中学生の訪問を受けたりすることを積極的に取り入れている。このたび、男性職員の一人が地域の消防団員として活動することが決まったことでも、取組み姿勢がうかがえる。	○	さらに事業所の内容について地域の理解を得るために、季刊誌「つむぎの家」を活用して、地域の自治会や福祉の関係先に働きかけることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業所独自においてもP-D-C-Aの改善活動行っているが、サービス評価についても代表者、管理者および職員の理解度は高く、介護サービスの質の確保に活かす姿勢が感じられる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催して地域からの参加者に事業所の活動内容や利用者の暮らしぶりを報告すると同時に、参加者から得られた、発言や意見を運営に活かしている。近所の人に出席をお願いする試みも始めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の課題を相談したり、意見を聞いたりする行政とのパイプができています。市のNPOセンターにも登録し、市民活動としても認知症介護の理解や啓蒙に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	重要なことはまず家族へ電話して報告や相談するようにしている。日々の暮らしの様子は電話や家族の来訪時に職員が詳しく報告している。行事の予定や報告は季刊誌で案内している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年9月ごろに開かれる家族会の折りに、一人ひとりの家族と面談して希望や提案を聞くように努めている。来訪時にも話をする機会をつくるようにしている。居室に手すりを取り付けるなどの要望に対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員がやりがいを持って仕事ができるように、ユニットリーダー等の責任体制や、主任会議等の会議の仕組み、処遇等の組織運営に重点を置いている。職員の異動が少なく、職員体制への家族から見た安心感や信頼度が高い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の成長を望み、研修や資格取得を支援している。年間計画に研修の予定を明記してスキルアップを支援している。職員も意欲的に自己のスキルアップに努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高槻市内の同業者との情報交換のためのネットワークができています。講習会に参加したり、事業所を見学し、参考にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前の段階では数回自宅を訪問して、本人の思いを聞きながら、新しい暮らしに徐々に馴染んでもらう手順を家族と相談している。併設のデイサービスの利用から慣れてもらう方法もとり入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に支えあいながら生活することで信頼関係が築けるように努めている。職員はいつも笑顔で元気に振舞っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生き甲斐にしてきたことや、過ごし方の思いを家族から聞き出すと共に、入居後の様子からも、意向の把握に努めるようにして、申し送りやカンファレンスで職員間の情報として蓄えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書が日常の介護活動に確実に反映するように「介護計画実施状況表」を活用して職員が毎日フォローするように改善されている。職員のアイデアを反映させる取り組みが行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者4、5名にリーダーをつけて職員と共に個別ケアの情報を集め、きめの細かい状況把握ができるような工夫がされている。定期的な、または状態変化による見直し時には家族の意見を聞いて、職員の気づきや意見をいれた新たな計画を作っている。	○	管理者や計画担当者および職員が意見を出し合い、利用者個別の介護を徹底するために書類や確認方法に改善が加えられている。介護記録は事実のみを記述するようにしているが、利用者の訴え、行動、反応、かけた言葉、感情の動きなど、また職員が感じたフエジーなことも記述しては如何か、一度、検討して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事情で退所することになった利用者を九州の施設まで、職員が同行するというように、家族や利用者の環境や状況に応じて事業所として、できる限りの対応を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とはその都度相談できる関係と体制ができています。提携医療機関による定期的な受診や法人の看護師と情報交換をしながら早期対応を心がけて、本人や家族の安心に繋がるようにしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所の段階から、重度化した場合の事業所としてできる対応や家族や本人の希望について話し合うようにしている。かかりつけ医との連携を密にしながら、体調や症状の変化を連絡し合う体制ができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の尊厳に配慮した接し方を心がけていた。書類や記録の扱いにも職員は気を配っている様子を確認できた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は介護計画書に基づいて、利用者の希望や生活リズムを大切にしながらの支援をしている。利用者は思い通りの過ごし方をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時には、利用者の残された能力を引き出すように、配膳や後片付けにへの参加を促している。会話を楽しみながら職員と一緒に食事が行われている。利用者のペースで食事ができている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴ができるように曜日を決めているが、希望の日にも入浴ができるようになっている。菖蒲湯など季節季節に合わせたアイデアを入れて、入浴を楽しんでもらう工夫がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割を持って暮らしてもらえるように介護計画書にも個々の支援課題を明記して、課題に沿った支援を「介護計画実施状況表」で日々確認できるようにしている。利用者はテーブル拭きや洗濯物たたみ、食事運びを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は利用者が、できるだけ戸外の空気に触れる機会をつくるように、利用者の体調や気分と相談しながら散歩や買物に出かけている。家族の協力を得ての外出も行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は1階で、外部からの侵入者を防ぐために施錠している。利用者は2階部分で過ごしているため、外へ出る意向の利用者には職員が対応して、閉塞感を出さないように努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	万一の備えての火報設備の設置や避難ルートの確保など災害に対する備えに取り組んでいる。このたび、男性職員が地域の消防団員として登録したことは、防災体制の面でも有効と思われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については管理栄養士の指導を受けながら、利用者個々の栄養管理が行われている。水分補給等の日常生活での健康状態を把握する記録等は徹底されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは2階部分であるが居間・食堂の天井が高い構造となっている。廊下も広くて確保されている。外光がよく入るが、レースのカーテンでやわらいだ感じとなっている。食堂、トイレは清潔に保たれている。夜間は各居室から近い場所に待機して夜勤担当の職員が見守りできるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が生活に馴染み落ち着いた気持ちで過ごせるように、職員は家族の協力を得ながら、家具など使い慣れた備品を居室に持ち込んでもらうように努めている。換気や室温にも配慮している。清掃も行き届いている。		